

二十年前、国全体を同時に襲った大きな地震があった。

その大地震は、今では【災厄地震^{さいやく}】と呼ばれている。

【災厄地震】によって、国は国としての機能を失いそうになった。

国の指導者たちは、国を見捨てた。自分たちだけが、国の外へ逃げたのだ。

だが、すべての指導者が逃げたわけではなかった。

一部の指導者は国に残った。そのため、国は国としての機能をどうにかたもつことができた。

残った指導者たちは、国の復興を開始した。まずは首都とその周辺、そして国として重要な場所の復興から開始した。

国はどんどん復興していった。

しかし、どうしても復興の手を伸ばすことができない場所もあった。
指導者たちは、仕方なくその場所を見捨てることにした。

『その場所は最初から、この国に存在しなかった』ということにしたのだ。

復興から見捨てられた場所……そこは【忘れられた街】と呼ばれるようになった。

【忘れられた街】は海外扱（あつか）いである。

復興の手から見捨てられた【忘れられた街】であるが、【忘れられた街】は【忘れられた街】で独自に復興していった。

国から見捨てられ、海外扱いとなったが、独自に復興した【忘れられた街】。
これは、そんな【忘れられた街】で強く生きる者たちの物語……。



夜になると賑やかさを見せるようになるが、昼間は死んだように静かな場所……歓楽街の一つ。

歓楽街にある店の多くは昼間は営業していないが、昼間でも営業している店はあった。

【天使の館】^{やかた}という名の店は、昼間でも営業している店の一つであった。

その店からは、音楽が漏れ響いている。

店内は薄暗い。だが、一カ所だけライトで明るく照らされている場所があった。ライトで明るく照らされている場所……半円形のステージ。ステージに設置されているスピーカーからは、アップテンポの派手な音楽が鳴っている。その音楽が、店の外に漏れ響いているのだ。

半円形のステージの前にはパイプ椅子がいくつも置かれており、男たちが座っている。男たちはステージで踊っている一人の美女に注目していた。

身長百五十センチほどの、十八歳の美女。ストレートのロングの黒髪をポニーテールにしている。

美しい顔に笑みを……営業用の笑みを浮かべ、スピーカーから流れる音楽に合わせて踊っているポニーテールの美女は、白いブラジャーとショーツだけという下着姿であった。

白いブラジャーに包まれている胸の膨らみのサイズは、つつましい。

サイズとしてはAカップといったところだ。

下着姿で踊る美女の名前は夜枝^{やえ}。

夜枝はステップを踏みながら半ターンして、観客である男たちに背中を向けた。そして白いショーツに包まれている尻を突き出す。尻のサイズもつつましい、小さめだ。

小さめのサイズだが、ショーツの上からでも美しい形をしていると分かる尻。音楽に合わせて左右に振られる夜枝の小さめの美尻。